

秋田県が自動車産業振興の取り組みを加速させている。秋田の経済を支えてきた電子部品やデバイス産業は苦戦を強いられており、自動車を新たな産業の柱に育成していくことを喫緊の課題に位置付けている。中部の部品メーカー誘致を機に、さらに自動車産業の集積を進めていく現地の動きを探った。

自動車を新たな柱に



安全教育を受ける大橋鉄工秋田の社員

悲願の誘致
「大橋鉄工さんに進出し
ていただいたことに大変感謝
している。
(完成車メーカーと直接取

メイドインアキタ
自動車産業振興に挑む

Made in Akita

引する)1次サプライヤー

の誘致は秋田県で初めて。

「大橋鉄工さんに進出し
長年の悲願だった」。企業

「大橋鉄工さんに進出し
ていただいたことに大変感謝
誘致を担当する秋田県産業

謝している。

その① 産官学の連携

企業誘致へ支援制度充実

横手に大橋鉄工進出、活性化期待

労働部産業集積課課長の猿田和三氏は、こみ上げる思いを抑えながら、静かに語った。

橋鉄工秋田を設立。16年8月下旬に新工場が完成し、17年2月から自動変速機(AUT)を構成するパーキングロッドを生産している。

投資を低減

さかのぼること2年と半年前。BCP(事業継続計画)対応について検討していた、大橋雅史社長の姿が秋田にあった。

「あきたりッチチプラン」。県の企業立地促進プランは、近隣県に負けじとさまざまの優遇策を盛り込んでいた。大橋社長の姿が秋田にあった。

含み資産

政府の工業統計調査によると、秋田県の14年製造品出荷額は1兆2149億円。全国43位で、東北では7年連続最下位に沈む。この状況を開拓するためには、成長できる企業を目指す」と、事業拡大に意欲を燃やす。

大橋社長は「地域の皆さんへの恩返しはこれから。地域社会とともに安定的に成長できる企業を目指す」と、事業拡大に意欲を燃やす。

決定した。同
年11月には、
現地法人・大
金も用意して
いる。さらに、
1人当たり年間25万円
を3年間支給する雇用奨励



自動車産業の集積が期待される横手第二工業団地

国内大手自動車メーカー向けを中心に、エンジンやボディー部品などを製造する大橋鉄工(本社北名古屋市)のトップだ。秋田に降り立つのは初めてだったが、「視察先で出会った秋田県民の人柄、一生懸命さ、必死さ、面白さにとても感動した」という。

その後、具体的な交渉を重ね、2015年10月に横手第二工業団地(横手市柳田)に工場進出することが決定した。同

年11月には、現地法人・大金も用意している。さらに、

見、整備された研究開発機器を活用できる。企業の相談に応じたり、共同研究を行ふことで「支援活動を幅広く展

開している」(鎌田悟所長)。産官学が緊密に連携できる環境を形成している。

モノづくりに欠かせない要素だ。人の温かさや暮らしやすさ、快適さなど、数値では測れない良さがある。こうした「含み資産」が拠点進出の大きな判断材料になつたようだ。

大橋社長は「地域の皆さんへの恩返しはこれから。地域社会とともに安定的に成長できる企業を目指す」と、事業拡大に意欲を燃やす。

大橋社長は「地域の皆さんへの恩返しはこれから。地域社会とともに安定的に成長できる企業を目指す」と、事業拡大に意欲を燃やす。

